

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 17 日現在

機関番号：31103

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25560028

研究課題名(和文)近隣騒音訴訟等の裁判資料収集によるトラブル防止策の社会的手法構築に関する研究

研究課題名(英文) Study on social prevention measure of neighborhood noise trouble by collection of justice documents.

研究代表者

橋本 典久 (Hashimoto, Norihisa)

戸工業大学・工学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：90295957

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：騒音訴訟および騒音事件に関する裁判資料を基に、トラブルの発生原因から、当事者相互の対応、係争のエスカレート状況、決着の内容までの詳細を調査し、これらのトラブル防止のために何が必要かを明らかにした。13件の事例について纏め上げ、この内容を書籍として出版し、地方自治体の騒音問題担当者などに配布し、トラブルの防止と解決のための資料として提供した。

研究成果の概要(英文)：Justice documents related to litigations and incidents on neighborhood noise, that contain the information such as concrete reason of trouble, behavior of adversary persons, escalating condition, content of closure and so on, were collected. Thirteen cases were gained and the book summarized these cases was published. These books were delivered to noise problem departments in local governments and public libraries. The book contributes to consideration of social prevention measure against neighborhood noise trouble.

研究分野：建築環境工学

キーワード：騒音トラブル 裁判資料 詳細事例集

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の騒音問題は、公害騒音から近隣騒音へと変移している。科学技術の発展により公害問題としての騒音は十分な制御が可能となっているが、技術だけではなく人間心理が大きく関わる近隣騒音問題では、地域コミュニティの崩壊や人間関係の希薄化など現代社会の諸様相により、問題の深刻化と発生件数の増加が急速に進んでいる。近隣騒音問題の特徴の一つは、トラブルの果てに殺人事件や傷害事件までが発生することであり、事件に至らない場合でも訴訟などを通して激しい争いが展開されることである。公害騒音問題では、これまで殺傷事件は一度も発生していないが、近隣騒音トラブルでは、毎年千件以上の事件が発生している。近隣騒音問題への社会的対応策が求められる時代となってきた。

2. 研究の目的

(1) このような近隣騒音問題の防止抑制対策を検討するには、実際に発生した騒音トラブルの詳細を克明に調査する必要がある。公害騒音の場合には音量や音源の物理的情報があれば対応は可能であるが、近隣騒音では人間関係や人間心理が大きな要素となるため、それに関わる当事者の初期対応の状況や交渉経緯を明らかにし、それが結果にどのように影響したかを究明する必要がある。

3. 研究の方法

(1) 公害騒音では騒音対策が必要であるが、近隣騒音では騒音対策に加え煩音対策が求められる。そのための情報収集の手段として裁判資料は極めて有用である。一つの訴訟に関して判決までに膨大な量の資料が蓄積されており、そこには判決書きからだけでは知れない当事者間の詳細なやり取り、心情、苦悩や悩みまでが記録されている。これらの情報は、近隣騒音トラブルの対策立案資料、特に煩音対策の客観的な基礎資料となるため、解決策の在り方を実証的に検討することが可能となる。この理由により裁判資料の閲覧調査を行い、様々詳細事例を収集した。

4. 研究成果

(1) 騒音訴訟および騒音事件に関する裁判資料を基に、トラブルの発生原因から、当事者相互の対応、争いのエスカレート状況、決着の内容までの詳細を調査し、これらのトラブル防止のために何が必要かを明らかにした。近隣騒音訴訟8件、騒音事件3件、その他近隣トラブル事例2件の合計13件の事例について詳細を纏め上げ、この内容を書籍として出版した。書籍はA4版、234頁に亘り、第1部では13事例の詳細を示し、第2部では事例全体の分析とトラブル防止のための社会的システムの提案を行った。

(2) 詳細事例の内容は以下の通りである

騒音訴訟記録No. 1

「私立高校エアコン騒音訴訟」

高校敷地境界付近に新たに設置されたエアコン室外機の騒音に対して近隣住民から苦情があり、室外機撤去と損害賠償請求の訴訟を提起された事例。

<分析キーワード> 地域社会における学校の存在、誠意ある初期対応の重要性、当事者双方に被害者意識の矛盾、トラブルのニーズに応じた対応、騒音対策と煩音対策、役に立たなかった3つの事項、(参考)騒音規制法と環境条例

騒音訴訟記録No. 2

「子ども活動センター騒音訴訟」

子どもが野外活動をする目的で利用されてきたプレイパークからの子ども達の騒音がうるさいと、近隣住民が騒音の防止と損害賠償請求の訴訟を提起した事案

<分析キーワード> 子どもの声に対するトラブル、初期対応における想像力、誠意ある対応の反動、クレーマー扱い、孤独感と騒音トラブル、和解決着の問題点

騒音訴訟記録No. 3

「市民公園・子どもの遊び声差し止め請求」

市民公園内にある噴水で遊ぶ子ども達の声やスケートボード場の騒音がうるさいとして、騒音の差し止め請求が行われた事例。

<分析キーワード> 2つの事案に共通の内容、子どもの声は騒音か

騒音訴訟記録No. 4

「スポーツセンター騒音訴訟」

フットサル場として使われている民間スポーツセンターからの騒音がうるさいとして、近隣住民7名が防音対策の要求と損害賠償請求の訴訟を提起した事例。

<分析キーワード> 地域社会での人間関係の希薄化、判決を分けたもの

騒音訴訟記録No. 5

「銭湯ボイラー騒音訴訟」

自治体が運営委託している銭湯のボイラーからの騒音がうるさいとして、近隣住民が損害賠償請求訴訟を提起した事例。

<分析キーワード> 判決文と実態の乖離

騒音訴訟記録No. 6

「マンション・子どもの足音騒音訴訟」

マンションの上階に住む家族からの子どもの走り回りや飛び跳ねなどの足音騒音がうるさいとして、下階の夫婦が騒音の防止と損害賠償請求の訴訟を提起した事例。

<分析キーワード> 床衝撃音トラブルの典型的事例、集合住宅における子どものしつけ、床構造と床衝撃音性能、これまでの床衝撃音判決の推移

騒音訴訟記録No. 7

「マンション・上階音苦情に対する損害賠償訴訟」

マンションで下の階の住人からの執拗な騒音苦情により、精神的な苦痛を受け身体的な障害を生じたとして、損害賠償請求の訴訟を提起した事例。

<分析キーワード> 和解による決着について、当事者供述の工学的検証、悪意の苦情者への対処

騒音訴訟記録No. 8

「マンション・上下階居住者間騒音トラブル訴訟」

マンションの上階からの子どもの足音が受忍限度を超えているとして、下階の夫婦が騒音の差し止めと損害賠償請求の訴訟を提起し、居住者間で激しい争いになった事例。

<分析キーワード> 判決内容解説、争いの中での当事者の嘘、集合住宅での騒音問題

騒音事件記録No. 1

「県営団地・上階音殺人未遂事件」

5階建て県営団地に居住する母親と子ども4人の家族が、下の階の居住者から苦情を言われて争いとなり、女性が下階住人の男性を刺した殺人未遂事件。

<分析キーワード> 騒音事件の発生条件、床衝撃音問題に関する社会啓蒙、同種事案の予防効果

騒音事件記録No. 2

「木造アパート・隣人3人刺殺事件」

古い木造アパートに暮らす男性が、隣の住人の扉を閉める音や生活音がうるさいとして、隣人夫婦を刺殺し、駆けつけたアパートの大家も刺殺した殺人事件。

<分析キーワード> 騒音事件発生条件からの分析

騒音事件記録No. 3

「近隣騒音トラブル母子殺傷事件」

小さい戸建て住宅が並ぶ住宅地で、隣家の子どもの声や生活音がうるさいとして、隣家の主婦を刺殺し、子ども二人にも重傷を負わせた殺人および殺人未遂事件。

<分析キーワード> ピアノ殺人事件との類似点と相違点、騒音事件件数の推移

近隣トラブル記録No. 1

「タウンハウス・猫餌やり禁止訴訟」

タウンハウス住人が、庭で生まれた野良猫の子猫に餌やりを始めたことをきっかけに猫が集まり、その糞や毛、鳴き声で被害を受けたとして、他の住民が猫への餌やり禁止と損害賠償請求の訴訟を提起した事例。

<分析キーワード> 猫餌やりの同種事例、訴訟の背景にあるもの

近隣トラブル記録No. 2

「隣人トラブル・猟銃殺傷事件」

戸建て住宅で暮らす隣人同士が争いとなり、隣家の男性が女性に嫌がらせを繰り返し、20年近くのトラブルの果てに男性が女性を猟銃で射殺した事件。

<分析キーワード> 近隣トラブル解決システムの必要性

(2) これらの成果は、広く社会が共有し、トラブルの防止と対策に役立てる必要があるため、各所への書籍の配布を行った。配布先は、第一は地方自治体の騒音問題担当部署であり、東京都に関しては23区および全都下市町村、その他については、全政令指定都市、全国都道府県の県庁および県庁所在市、大阪、名古屋などの大都市圏の主要都市などである。また、一般の人にも情報提供できるよう、日本全国の子な公共図書館、および主要な大学図書館にも寄贈を行った。その他、関連学会や研究所、新聞社等の生活情報部署にも配布した。送付先は約1000箇所以上。更に、筆者研究室のホームページに書籍をPDF化したファイルをアップして、一般の人が誰でもが本資料を利用できるようにした。

(3) 配布後の評価も高く、学会活動に利用するための送付依頼や研究会での利用のための書籍送付の依頼も多く寄せられている。また、県庁などでは全県の市町村に本書の内容を周知し、利用を働きかける旨の連絡も入っている。これらの動きを通して、近隣騒音問題への社会的な関心の拡大と、社会的対応策の必要性の理解が進むことを大いに期待しており、本成果はこれに大きく寄与するものと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4件)

橋本典久、騒音問題は半心半技、季刊教育法、査読無、176巻、2013、28-33

橋本典久、苦情社会を迎えて・上 学校の騒音問題、週刊教育資料、査読無、1279巻、2013、24-25

橋本典久、苦情社会を迎えて・下 学校の騒音問題、週刊教育資料、査読無、1280巻、2013、18-19

橋本典久、近隣騒音トラブルの現状と解決法、騒音制御、査読無、38巻、2014、1-7

〔図書〕(計 1件)

橋本典久、八戸印刷工業、騒音トラブル防止のための近隣騒音訴訟および騒音事件の事例分析、2015、234

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.nh-noiselabo.com/download/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本典久 (HASHIMOTO, Norihisa)
八戸工業大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号：90295957